



遠大勵志

開校記念講演会

5月2日(火)10時から第一体育館において、本校28回生(昭和31年3月卒業)元読売テレビアナウンサーの鎌田龍児さんを講師としてお迎えし、「テレビ報道の現場から～自分磨きの日々～」という演題で70分の講演を頂きました。



鎌田先生は、多くの事件や事故を取材し報道に関わってきた中でも、特に印象に残っている3つの事件事故について話されました。

(1) 三井三池三川鉱炭塵爆発事故(昭和38年11月9日)

一報を受けてヘリコプターに乗り、現場へ急行した。死者458人、一酸化炭素中毒839人の戦後最悪の炭鉱事故。炭塵爆発により遺体は真っ黒で顔もわからない状態。状況の酷さに言葉を失った。

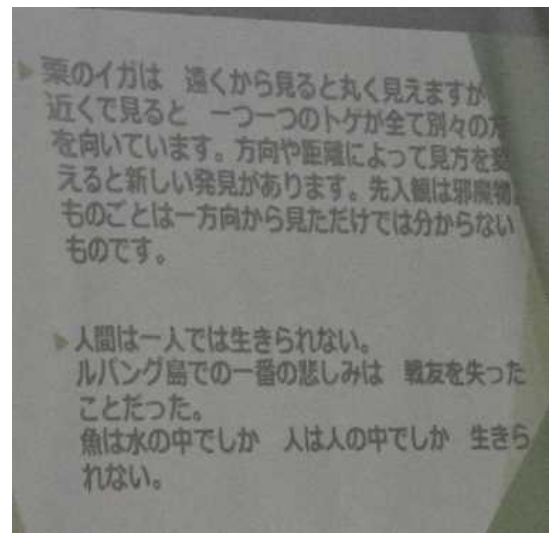
(2) 千日テパートビル火災(昭和47年5月13日)

死者118人、負傷者81人の日本のビル火災史上最悪の大惨事。5分程度のテレビ放送の予定が、被害の甚大さに急遽103分の取材報道となった。

(3) 小野田寛雄元日本兵救出作戦(昭和49年3月12日帰国)

1年半にわたり、延べ70日あまり、ルバング島での取材をした。現地司令官の通訳をしながらの取材だった。小野田さんの帰国の際には、一緒に飛行機での箱乗り取材を行い、羽田に到着後は、すぐにテレビの生リポートを行った。

【小野田寛雄さんの印象に残った言葉】



次に、取材などを通して忘れられない人々として、3人の方をあげられました。

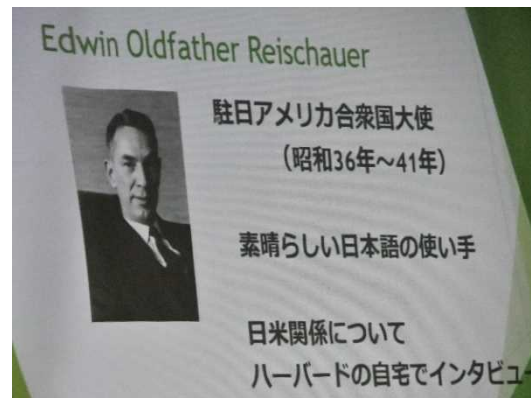
(1) ロバート・フランシス・"ボビー"・ケネディ氏

第35代アメリカ大統領ケネディの実弟。人柄・行動・思想すべてが政治家の理想像であった。昭和43年6月6日に凶弾に倒れた。残念だった。

(2) 松竹新喜劇座長の藤山寛美氏

「私は芝居が下手だから、毎日稽古しないと駄目なんだ」という藤山氏の発言を聞いて、毎日安全運転をしていた私は、がーんと頭を殴られたように感じたと話され、また、藤山氏が話された「順番を待っているだけの人間には永久に順番は来ない。」という言葉も忘れられない。

(3) 元駐日アメリカ大使 ライシャワー氏



「言葉はTPOをわきまえて、きちんと使わなければ誤解を与える」と話されたことがとても印象

に残っている。

さらに、「メテアスクラム」に関わり、平成10年7月25日
に和歌山市で発生した和歌山毒入りカレー事件の取材を通し



て、加熱した報道のあり方について、見解を述べられ、「メテアリテラシー」に関わっては、新聞各紙を読み比べながら、またテレビのニュースの視聴比較しながら、必要な情報だけを取り出し活用し、発信するスキルを身につける必要があることを伝えられました。

講演の最後には、テレビ放送も過渡期に来ていることにも触れながら、私たちに「物事に感動するナイーブな感性を磨くこと」「ひとつの見方にとらわれず、多面的に物事を受け入れることの大切さ」「ぬるま湯につかっているだけではだめ。他人と違うことをやる勇気をもつこと」を話され、講演を終えられました。

高校生の生徒達には、過去の知らないニュースや事件の話だったようですが、ニュース・事件のすべてがリアルタイムの出来事だった私にとっては、すべてのお話が新鮮で、そのニュース事件に直接関わっていた方のお話を聞く機会に恵まれたことは、本当に嬉しいことでした。

講演終了後には、生徒会長からお礼の言葉と生徒会副会長から花束が贈呈されました。その後、全校生徒からお礼の校歌とエールを鎌田先生に送りました。



HABATAKE! 黒陵 第3回派遣報告会

開校記念講演会終了後、10分程度の休憩を取り、「HABATAKE!黒陵」事業で、3/27~4/3までの8日間の日程でサンフランシスコ・コンコードに派遣された10名の生徒達が、全校生徒と講演会に参加された方々を前に、報告会を開きました。



10名の皆さんには勉強と部活動の合間を縫

いながら、スライドの作成や発表資料の作成をしていただきました。30分にもわたる内容のしっかりした発表で、報告を聞かれたOBの方々からも大変素晴らしい、とお褒めの言葉をたくさん頂戴しました。

また、この報告会は、午後開催された本校同窓会総会の場でも、さらにアレンジを加え発表してもらいました。有り難うございました。ありがとうございました。感謝します。



講師の鎌田先生を囲んで

放送部の4人が顧問の晴山先生と共に、12:30頃からアナウンスについての指導を受けたいと、校長室を訪れました。鎌田先生は快く相談に乗り、生徒達は鎌田先生からの指摘をしっかりとメモを取りながら、今後の活動に役立てようと一生懸命にアドバイスに耳を傾けていました。放送部の皆さんの今後の活躍に大いに期待します！

